



農業農村整備

かごしま

VOL. 328
平成26年6月発行



トピックス

水土里ネットまつもとが、21創造運動大賞を受賞



水土里ネット

水土里ネット鹿児島

<http://www.dokairen-kagoshima.or.jp/>



INDEX

■トピックス

- 水土里ネットまつもとが「21世紀土地改良区創造運動大賞」を受賞…………… 1

■本会の活動

- 第56回通常総会を開催…………… 4
- 平成25年度 第3回・第4回理事会を開催…………… 7
- 全国土地改良功労者表彰伝達式…………… 8
- 平成25年度 水土里ネット役職員研修会…………… 11

■政策情報

- 多面的機能支払交付金の概要…………… 12

■土地改良区情報

- きらり★水土里女子…………… 16
- 水土里ネットの更新情報(設立・解散、理事長の変更等)…………… 17
- 「(要約版) 賦課徴収と滞納処分」の発行…………… 17

■ニュース・アラカルト

- 棚田保全や地域活性化を学ぶ研修会を開催…………… 18
- イオンモール鹿児島で棚田や水土里サークル活動をPR…………… 19
- 県水土里サークル活動支援協議会の幹事会・総会を開催…………… 20
- 加治木地区で小学生が生きもの学習会…………… 21
- 平成25年度 土地改良換地士部会を開催…………… 22
- 平成25年度 農地利用集積推進対策会議を開催…………… 22
- 平成25年度 九州協議会 第2回 換地・確測担当者会議を開催…………… 23
- 平成25年度 水土総合強化推進事業(技術力向上事業)技術実践研修会を開催…………… 23
- 霧島市学童クラブ防災勉強会を開催…………… 24
- 第15回ため池のある風景写真コンテスト 本県の写真愛好家が最高賞を受賞…………… 26
- 「疏水のある風景」写真コンテスト2013 本県から2名が入選…………… 26
- 水土里ネット鹿児島 パンフレットを作成…………… 27
- 新規採用職員5名が入会…………… 27

■各管内だより

- 鹿児島事務所…………… 28
- 徳之島支部…………… 29

■お知らせ

- 第37回全国土地改良大会(山梨大会)の開催について…………… 30
- 「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2014 作品募集…………… 31
- 「第23回かごしまフォト農美展」作品募集…………… 32
- 土地改良区複式簿記研修会の開催について…………… 32
- 会議・研修会情報…………… 33
- 編集後記…………… 33



表紙写真

第22回かごしまフォト農美展 特選
 大社 正照「青空田んぼ」
 撮影場所:南さつま市

水土里ネットまつもとが「21世紀土地改良区創造運動大賞」を受賞



松元ダム

21世紀土地改良区創造運動大賞の中央選考委員会が、2月24日、東京都の砂防会館別館で開催され、本県の水土里ネットまつもと(鹿児島市松元土地改良区/宇田隆光理事長)をはじめとする2水土里ネットが大賞を、4水土里ネットが部門賞を受賞した。

21世紀土地改良区創造運動(以降21創造運動)は、水土里ネット(土地改良区)の役割や、農業農村が持つ多面的機能の重要性について国民的理解を得ることを目的に、平成13年から全国で展開されている。21創造運動大賞は、その中でも特に際立った運動を展開している水土里ネットを表彰し、全国で紹介して運動のさらなる拡大につなげようと平成15年から実施されてきた。開始10年を機に見直しが行われ、平成25年度から、これまでの「大賞」及び運動に取り組み始めて間もない水土里ネットを表彰する「さなえ賞」に加えて、「部門賞」が新たに併設された。

今回の中央選考委員会には、事前選考会で絞り込まれた6地区が参加し、選考委員の前で活動についての説明を行い、その後、委員らの質問に答えた。水土里ネットまつもからは、宇田隆光理事長と吉村清美事務局長が出席した。

水土里ネットまつもとは、松元ダムの効率的な水利用と、かんがい施設の円滑な運用により、松元地域の農業振興に資することを目

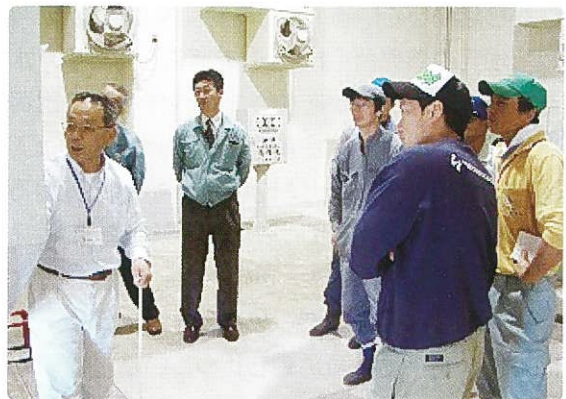
的に、平成元年3月25日に設立された。組合員数615名、受益面積277ha(水田67ha、畑51ha、樹園地159ha)で、茶畑の占める割合が高い。松元地域の農業は、ダムの水によって恒常的な水不足が解消し、安定的な経営が図られるようになった。若い担い手も育っている。

その一方で、同地域は鹿児島市街地に近く、混住化の進行が著しい地域でもある。将来、さらに非農家の割合が増えても、地域住民から水土里ネットの役割に対する理解と協力を維持していくためには、組合員だけでなく、地域全体に視野を広げた活動が必要だと考え、平成16年、「鹿児島市松元土地改良区」から「水土里ネットまつもと」として21創造運動に取り組み始めた。

その活動は徐々に広がり、地域の学校や自治会等の地域の団体だけにとどまらず、行政やNPO、大学や地域の企業などとも広く連携した活動を行っている。特に平成19年度から導入された水土里サークル活動については、水土里ネットが核となって活動を牽引しながら、地域を挙げて取り組んでいる。

水土里ネットまつもとは、主に次のような21創造運動を続けている。

【内部組織強化の取り組み】



水利用管理組合の研修会

内部に「水利用協議会(行政や業者も含む)」と「水利用管理組合(組合員)」を設置し管理で運営を行っている。畑地域の組合では、団地毎に組合長を置き、自ら年間の水利用計画(4団地のブロックローテーション散水計画)を作成し、それに沿って水管理を行っている。また、組合員への節水指導や、点検のための一斉散水、施設の点検清掃にもメンバーが積極的に関わっている。内部に青年部も組織され、研修会等の参加者も多い。

【集落営農・直売所への関与】



農業の話をしなが、一緒に給食を食べる組合員

役員・総代・職員が中心となって、平成20年頃から集落営農組織の立ち上げへ向けた合意形成を図ってきた結果、平成24年に四元営農組合が設立され、水土里ネットも活動に関与している。これにより、水土里ネットに農地の情報が集約されるとともに、耕作放棄地の発生防止にも役立っている。

また、水土里ネットの役職員が役員を兼務しながら活動している「松元高齢農業振興クラブ」が、地元の直売所「お茶畑」を運営しており、水土里ネットでは、水を使った園芸作物等の出荷を推進している。組合員等の取り組みによって客足も増え、売り上げも開設当初の約800万円から、平成24年度には約5,600万円に増えた。平成18年度から、学校給食への食材搬入も開始し、農業の話をしなが子ども達と一緒に給食を食べる食育活動も行っている。

【外来魚駆除の活動】



外来魚駆除活動の後、公民館で学習会

松元ダムには、外来魚のブルーギルやオオクチバスが繁殖しており、周辺への影響が心配されている。水土里ネットでは、外来魚の駆除と併せて、ダムの役割や水土里ネットについても知ってもらおう活動をしている。釣り愛好家の協力を得て「外来魚駆除隊」を結成。市の環境保全課やNPOと一緒に子ども向けの外来魚駆除と環境学習会を開催。琵琶湖博物館や鹿児島大学と連携した外来魚の生態と駆除方法の調査など、多様な活動を行っている。

【農業体験】



学校に向いて、農業体験前に学習会を実施

平成17年からソバの植え付け、刈り取り、実落とし、ソバ打ち。平成19年から田植え、稲刈り、脱穀、餅つきを、現在は、水土里サークルの活動組織と一体となって実施している。対象は地元の幼稚園や小学校、鹿児島市街地の中学校のほか、特別支援学級の生徒など。農家民泊に訪れた都会の高校生と地元小学生を、交

流させながら農業体験を行うなどの工夫もしている。

【ダムと畑かん施設の見学会】



水土里ネットやダムの役割について説明

各種団体や学校の見学を受け入れるほか、平成17年から鹿児島市の「かごしま再発見地域めぐり事業」で鹿児島市街地から訪れる参加者に、ダム等の見学や散水実演などを実施。また、まちづくりワークショップと連携して作成した「松元地域ガイドブック」を見学者に配布している。これには、水土里ネットの維持管理活動や外来魚駆除活動、水土里サークル活動について大きく掲載されている。

【ふれあい清掃in松元ダム】



清掃に参加する外来魚駆除隊の高校生ら

平成17年から年2回実施している。行政や関係団体のほか、地元の建設業やコンサルタント、NPOなど、毎回100名近い人が参加している。

水土里ネットまつもとは、こうした活動が評価され、今回大賞に輝いた。中央選考委員会より示された選考理由は次のとおり。

- 1)水土里ネットが地域の核となるよう、役職員は地域の多様な団体に参画してネットワークを広げている。
- 2)役職員だけでなく、総代や組合員なども積極的に活動に参画している。また、内部組織でもある水利用管理組合に「青年部」が組織され、研修実施等による人材育成にも取り組んでいる。
- 3)外来魚駆除の活動を通じ、環境学習的な効果だけでなく、施設の保全活動に対する理解を深める効果も出ている。
- 4)農業体験では農家民泊の都市の高校生と地元小学生を交流させる形をとったり、特別支援学級の生徒を対象に実施するなど、多様な工夫をしている。
- 5)施設の見学会やふれあい清掃などの各活動が相互にネットワーク化されている。



中央選考委員会で説明する宇田理事長

【平成25年度21創造運動選考結果】

○平成25年度21創造運動大賞地区

水土里ネット名	副題	所在地
まつもと	地域連携フロンティア	鹿児島県
馬場楠堰	歴史伝承プロデューサー	熊本県

○平成25年度21創造運動大賞 部門賞地区

水土里ネット名	部門名	所在地
網走川	地域コミュニティー	北海道
おになら	地域コミュニティー	青森県
岩手山麓	地域資源管理	岩手県
大門町	組織活性化	富山県



本会の活動

第56回通常総会を開催



永吉会長の挨拶

水土里ネット鹿児島の第56回通常総会が、3月18日、県土地改良会館で開催され、会員167名（うち委任状76名）が出席して、平成26年度事業計画の決定についてほか、全8議案を審議した。

総会では、永吉弘行会長が「昨年末、農業などの活性化策である『農林水産業・地域の活力創造プラン』が正式決定され、農業・農村全体の所得を今後10年間で倍増させることを目指し、農地中間管理機構による農地の利用集積や日本型直接支払制度の創設など、農林水産業を強くしていく政策が示された。

農業農村整備事業関連予算においても、大幅削減以降、着実に回復傾向にあり、今後さらに期待を持てる情勢ではないかと考えている。しかしながら、農業・農村を取り巻く現状は農業者の高齢化や耕作放棄地の拡大など、依然厳しい状況下であり、私ども関係者全員が新たな気持ちで取り組んでいかなければならないと再認識している。

またTPP交渉は大筋合意に達しておらず、引き続き国益をかけた厳しい調整が行われているが、何としても食の安心・安全や農業農村の多面的機能を損なうことのないよう注視する必要がある。

このような情勢のため、平成26年度は本県農業農村整備事業の推進や本会の組織運営においても大きな変化が予測されるところであるが、情勢の如何にかかわらず、会員の皆様方の

利益増進につながる事業活動を国・県及び関係者の皆様方と連携しながら、適切に進めていくこととしている。これまでと変わらぬご支援・ご協力を賜りたい」と挨拶した。



表彰状を受け取る坂口理事長



表彰状を受け取る岩下事務局長

次に、表彰が行われ、多年にわたり土地改良事業の推進と発展に大きな功績のあった、坂口幸夫・大隅町笠木原土地改良区理事長、岩下一弘・南薩土地改良区事務局長が県知事表彰を受けたほか、1団体と個人39名が土地改良功労者表彰などに表彰された。

続いて、伊藤祐一郎・県知事、池畑憲一・県議会議長、井上明・九州農政局長が来賓祝辞を述べられた後、横山宏志・吹上町土地改良区理事長が議長に選任され、議事審議に入った。

役員の新補欠選任では、新たに福田博史・県農政部長が学識経験理事として選任されたほか、提案された8議案すべてが可決承認された。

最後に、鹿児島の農業・農村の持続的な発展を目指し、関係者が総力を結集し、農業農村整

備事業を強力に推進していこうと決議案が朗読され、満場の拍手で採択された。



伊藤知事による来賓祝辞

◎提出議案

《第1号議案》平成24年度事業報告並びに一般会計・特別会計収支決算及び財産目録について

《第2号議案》平成25年度一般会計・特別会計収支補正予算の決定について

《第3号議案》平成26年度事業計画の決定について

《第4号議案》平成26年度会費等の賦課基準並びに徴収方法の決定について

《第5号議案》平成26年度役員報酬の決定について

《第6号議案》平成26年度一般会計・特別会計収支予算の決定について

《第7号議案》平成26年度一時借入金の最高限度並びに借入方法及び余裕金預入先の決定について

《第8号議案》役員の新選任について



本会職員による決議朗読

決議

農業・農村は、国民生活を支える食料の安定供給という、重要な役割を担っているほか、農業生産活動を通じて、国土の保全、水源の涵養、美しい農村景観の形成、更には、地域文化の伝承など、様々な多面的機能を有し、多岐にわたって地域社会に貢献している。

しかしながら、先人たちの献身的努力により、維持され守られてきた農業・農村は、過疎化、高齢化、担い手不足に加え、地域力低下などの課題が山積している。また、農業水利施設の老朽化も進行しており、食料自給率の向上に支障をきたすばかりか、農村地域に多大な損害をもたらすことが危惧されている。

このため、今こそ、担い手への農地集積の加速化、経営規模拡大を実現し、新たな地域農業を切り開いていく必要がある。更には、老朽化した農業水利施設の保全整備や、更新などを着実に進め、農業の体質強化を図るとともに、安心・安全な農村づくりが不可欠である。また、農村の資源を活用した小水力発電等への期待が大きくなっていることに対しても、十分に伝えていく必要がある。

以上を踏まえ、水土里ネット鹿児島は、鹿児島の農業・農村の持続的な発展を目指して、農業農村整備事業を強力に推進するため、水土里ネット関係者の総力を結集し、左記事項の実現を、第五十六回通常総会の名において決議する。

記

- 一 農地集積の加速化に向けた農地の大区画化と汎用化の整備促進
- 一 食料供給基盤の強化を図るため畑地かんがい施設整備の積極的な推進
- 一 農業水利施設の保全整備や耐震化等の防災・減災対策の着実な推進
- 一 農村の資源を活用した小水力発電等の再生可能エネルギーの普及促進
- 一 地域資源の良好な保全管理に向けた水土里サークル活動の積極的推進
- 一 土地改良区の公益的役割を評価し組織基盤強化に向けた支援の強化

右決議する。

平成二十六年三月十八日

水土里ネット鹿児島（鹿児島県土地改良事業団体連合会）

第五十六回通常総会



本会の活動

第56回通常総会表彰者名簿

[鹿児島県知事表彰] (2名)

氏名	所属名	役職名
坂口 幸夫	大隅町笠木原土地改良区	理事長
岩下 一弘	南薩土地改良区	事務局長

[県土改連会長表彰]

1 土地改良功労者表彰

(1) 団体功労表彰 (1 団体)

団体名
いちき串木野市土地改良区

(2) 個人功労表彰 (13名)

氏名	所属名	役職名
平山 範章	南さつま市都市整備課	係長
黒瀬 雅彦	大浦干拓土地改良区	理事長
杉水流 博	さつま町耕地林業課	課長
小浜 正春	霧島市国分土地改良区	理事長
田崎 英治	伊佐市大口土地改良区	理事長
小倉 久男	思川土地改良区	理事長
迫 良友	宮内原土地改良区	事務局長
堂地 富男	東串良町林田土地改良区	理事長
宮脇 幸一	西之表市土地改良区	理事
永田 章	西之表市土地改良区	元総括監事
浜脇 吉嗣	中種子町土地改良区	理事長
高田 浩志	宇検村建設経済課	課長補佐
鬼塚 寿文	与論町産業振興課	課長

※所属、役職名は総会時

2 永年勤続役職員表彰 (6名)

氏名	所属名	役職名
中濱 一雄	指宿市干寄土地改良区	理事
樋渡 芳子	頰娃町土地改良区	会計主任
山本 茂博	さつま町耕地林業課	主幹
竹之内敏明	出水平野土地改良区	技師
鎌田 良治	中種子町土地改良区	事務局長
久永 裕一	知名町耕地課	係長

3 感謝状 (20名)

氏名	所属名	役職名
猿楽 八郎	農政部工事監査	主任監査員
瀬戸口 保	日置市産業建設部	部長
柿野 良徳	出水平野土地改良区	次長
小濱 信一	霧島市国分土地改良区	事務局長
田中 晋一	伊佐市菱刈土地改良区	事務局長
神田 忠義	鹿屋市輝北総合支所産業建設課	課長補佐
宮園 幸次	笠野原土地改良区	管理課長
野村 春夫	曾於市大隅支所産業振興課	課長
井手佐喜雄	志布志市耕地林務水産課	課長
大野 達夫	大崎町耕地課	課長
又木 隆	志布志市志布志支所産業建設課	課長
東丸 幸男	曾於市財部支所産業振興課	管理用地係長
豎山 悟	曾於市大隅支所産業振興課	管理用地係長
平山 真人	曾於市大隅支所産業振興課	畑かんが係長
中村 知	土改連大隅事務所	所長
加治木正昭	土改連曾於支部	支部長
深町 向龍	土改連事業部水士里情報センター	センター長
前之園 勇	土改連熊毛事務所	業務課長
岩元 伸一	土改連事業部農村整備課	主幹
上木重一郎	土改連熊毛事務所	換地係長

平成25年度 第3回・第4回理事会を開催



第3回理事会

2月13日、平成25年度第3回理事会が開催された。会議に先立ち、永吉会長が「昨年末に農業などの活性化策である『農林水産業・地域の活力創造プラン』が正式決定され、農林水産業を産業として強くしていく政策が示された。本会としても会員・地域の情勢を的確に把握しながら新たな制度にも積極的に関与し、さまざまな支援事業活動に取り組んで参りたいと考えているので、引き続き皆様方のご支援をお願いしたい」と挨拶を述べた。

その後、議案審議に入り、提出議案はすべて原案どおり可決承認された。

提出議案は以下のとおり。

□議案

- ・第1号議案 第56回通常総会の開催について
- ・第2号議案 平成25年度一般会計収支補正予算の決定について
- ・第3号議案 平成26年度事業計画の決定について
- ・第4号議案 平成26年度会費等の賦課基準並びに徴収方法の決定について
- ・第5号議案 平成26年度役員報酬の決定について
- ・第6号議案 平成26年度一般会計・特別会計収支予算の決定について
- ・第7号議案 平成26年度一時借入金の最高限度並びに借入方法及び余裕金預入先の決定

について

- ・第8号議案 役員の補欠選任について
- ・第9号議案 第56回通常総会表彰者について
- ・第10号議案 決議について
- ・第11号議案 固定資産の処分について

□報告事項

- ・通常総会提出議案支部説明会（地域土改連絡協議会）の開催
- ・次期中長期ビジョンの策定について



第4回理事会

また、3月18日、平成25年度第4回理事会が第56回通常総会の終了後に開催された。会議に先立ち、永吉会長が、ご協力により通常総会を無事に終了できたことと本会の組織運営への支援に対するお礼を述べた。

その後、平成26年度の参与の委嘱について審議され、原案どおり可決承認された。

なお、平成26年度の参与を、吉嶺彰二・農業土木技監、堀洋一郎・県農地整備課長、小川和久・県農地保全課長、満園秀彦・県農村振興課長の4名に委嘱した。



本会の活動

全国土地改良功労者表彰伝達式

4土地改良区、個人2名が全国土地改良功労者表彰等を受賞



会長挨拶

平成25年度全国土地改良功労者表彰式が、3月25日に東京都で開催され、本県から4土地改良区及び個人2名が表彰された。

本会では、この表彰伝達式を4月18日、県土地改良会館で開催し、永吉会長が表彰状を授与・伝達し、受賞者の栄誉を讃えた。

以下、受賞された土地改良区及び個人を紹介する。

受賞団体及び個人の紹介

○金章 吹上町土地改良区

功労者表彰伝達式



金章を授与された吹上町土地改良区

薩摩半島西海岸のほぼ中央に位置し、永吉ダムのほか、永吉川、小野川、伊作川、ため池等を用水源とする受益面積約940ha、組合員数2,199名の土地改良区。

昭和41年から農業構造改善事業をはじめ、

大区画ほ場整備事業や特殊農地保全整備事業等を実施し、関係機関と連携しながら役職員一体となり地域農業の発展に努めている。

施設の維持管理は、地域活動として組合員全員で取り組んでいる。

また、土地改良区の運営では賦課金システムを導入し、効率的な徴収事務と、適正な予算執行、管理が行われている。

平成19年度からは水土里サークル活動にも積極的に取り組み、管内の活動組織を総括し、地域づくりのリーダー的な存在となっている。

○銀章 伊佐市羽月西土地改良区

功労者表彰伝達式



銀章を授与された伊佐市羽月西土地改良区

鹿児島県北部の伊佐市に位置し、標高180mから240mの水田を主体とする農村地域で、受益面積約178ha、組合員数304名の土地改良区。

これまでに農地保全シラス対策事業や県営ほ場整備事業等を実施し、近年は、農家負担金軽減対策支援事業により、受益者の負担軽減や担い手の育成にも取り組んでいる。

また、平成19年度からは水土里サークル活動に取り組み、管内にある4つの活動組織には役員として参画し、組合員は地域住民と一体となって共同作業に参加している。

施設の維持管理は役職員一体となって、適正な管理に努め、高齢化、後継者不足が深刻な問

題となっている中でも、農業委員会や行政等と連携し、補助事業等を活用しながら、耕作放棄地の解消にも努めている。

○銀章 喜界土地改良区

奄美群島の喜界島に位置し、受益面積1,620ha、組合員数667名の土地改良区。国内では2例目となる地下ダムを水源とし、サトウキビをはじめ、さまざまな農作物が生産されている。

平成8年に設立されて以降、国、県、町、関係機関と一体となって、喜界島の農業農村整備事業の推進やPRに努めてきたが、地下ダムや畑かん施設の完成に併せて、土地改良区の役割をさらに広くPRするため、21世紀土地改良区創造運動にも取り組み、平成24年度には「さなえ賞」を受賞した。

維持管理では、基幹水利施設管理事業や維持管理適正化事業等を活用し、各種施設の管理・補修・更新等を計画的に実施している。

また、地下ダムを一般開放し、職員がパネル展示や施設の説明を行いながら、農業農村のPRを積極的に実施し、水土里サークル活動と連携しながら、ボランティア清掃活動や地域イベントへの参加、伝統芸能の保全活動等、地域内外に対し、十分に存在をアピールしている。

※当日欠席のため、土地改良区奄美地域連絡会議において伝達の予定

○個人表彰・役員の一部

坂口幸夫・大隅町笠木原土地改良区理事長

者表彰伝達式



表彰を受ける坂口理事長

平成元年から土地改良区の理事に就任され、理事長の補佐役として各種土地改良事業に取り組み、大正末期に開田された1区画10aの小区画で不整形な農地の大区画化に向け、県・町・地域と一体となり、区画整理事業の実施に大きく貢献された。

事業完了後の平成13年からは理事長として、生産性の高い農業を目指し、土地改良区の組合員から成る営農組合を設立し、農地集積や機械化の促進等、効率的な営農と担い手の育成に尽力された。

長年にわたる理事及び理事長の経験から、さまざまな問題に対して的確に処理し、何事にも誠心誠意、決断力、実行力がある優れたリーダーである。

○個人表彰・職員の一部

岩下一弘・南薩土地改良区前事務局長



表彰を受ける岩下前事務局長

昭和55年に南薩土地改良区の事務職員として採用され、事業実施中の県営、団体営事業に係る事業負担金の償還事務や賦課金の徴収、施設の維持管理業務に携わってこられた。特に賦課金徴収については、100%近い徴収率の達成に努め、土地改良区の良好な運営に大きく寄与されている。

温厚誠実な人柄で、冷静で的確な判断力を持って事にあたり、部下の信頼も厚く、独特のユーモアにより職場の雰囲気をもたせている。地域でも集落などのボランティア活動にリーダー的存在として積極的に参加されている。

本会の活動

平成21年度からは事務局次長、平成22年度からは事務局長として土地改良区の運営に大きく貢献してこられた。本年度からは事務局参事として、職員の指導や後進の育成にも努めている。

○21世紀土地改良区創造運動大賞 鹿児島市松元土地改良区



表彰を受ける鹿児島市松元土地改良区

鹿児島市中心部に近い農業地域で、お茶や野菜の栽培が盛んな、受益面積277ha、組合員数615名の土地改良区。

古くから用水源に恵まれず、用水不足解消のため、昭和61年に松元ダムの建設が着工され、20年近い歳月を費やして完成した。現在では、松元地域の農業に欠かせないものとなっている。土地改良区は、平成元年3月に松元ダムの効率的な水利用とかんがい施設の円滑な管理運用、農業振興を目的に設立された。

平成16年からは、21世紀土地改良区創造運動、平成19年度からは水土里サークル活動に取り組んでいる。

特に、松元ダムを中心とした環境学習や外来魚駆除活動、水土里サークル活動と連携した農業体験学習、ダム湖周辺の清掃活動等、さまざまなイベントを開催し、地域内外から多くの参加者が訪れている。これらの活動に併せて、水土里ネットの役割や土地改良施設の必要性、地域の農業等を広くPRし、地域農業の振興に大きく貢献されている。

また、営農組織を設立し、地域農業の保全に向けて、高齢農家の生きがいづくりや担い手への農作業受委託の促進等、地域の橋渡し役としても、信頼される組織となっている。



受賞された皆さん

平成25年度 水土里ネット役職員研修会



役職員研修会

1月30日、県内の水土里ネットの役職員を対象にした「平成25年度水土里ネット役職員研修会」が、かごしま県民交流センターで開催され、県内各地の74水土里ネットから、役職員ら230名が参加した。

はじめに、水土里ネット吾平（鹿屋市）の波江野事務局長が水土里サークル活動（農地・水管理保全管理支払交付金）の取り組みについて発表した。

水土里ネット吾平の管内には、「吾平東環境保全協力会」と「下名西地区農用地利用改善組合」の二つの活動組織があり、水土里ネットは両組織の事務を受託している。水土里ネットの役員は水土里サークル活動の役員を兼務し、職員や総代、組合員も積極的に参加していることや、土地改良施設の維持管理の課題が解決していること、参加者が年々増加し、清掃活動等への協力体制が整ったこと、また、地域住民との交流が生まれたこと等が紹介された。

次に県農地整備課の増田専門員は、近年、土地改良区の不祥事が報告されているが、土地改良区が健全な運営を行うため、法令遵守や情報公開、説明責任を徹底すること、そして、理事・監事・職員がそれぞれの役割を果たし、内部牽制機能を発揮できる組織づくりを行い、不祥事を未然に防ぐことが重要だと説明した。

また、九州農政局の中村土地改良指導官は、土地改良区の運営管理強化について、役員の職務や責任・権限をはじめ、不祥事の未然防止と、

不祥事の具体的な事例、個人情報保護に関する規程（例）等を説明した。

全国水土里ネットの浦山所長は、土地改良区の現状や課題、展開方向等をデータに基づき説明。今後は土地改良区の役割を次世代に伝える必要があると話した。

本会の橋野管理課長は、今年度実施された土地改良区運営実態等統計調査のデータから、本県の土地改良区の現状を、日本政策金融公庫鹿児島支店の鈴木課長は、農業基盤整備資金の借入手順について説明した。

質疑応答では、「賦課金の納入者は誰なのか県内の土地改良区の状況が知りたい」、「農地の相続人が不在の場合、将来、誰に賦課金を支払ってもらえばよいのか」、「多面的機能支払制度がよくわからない」、「太陽光発電の現状を教えてください」等の意見が出された。

また、研修を終えた参加者からは、「賦課金の未納者への対策や滞納処分の手続きが参考になった。実際に取り組んでみたい」、「土地改良区の役割や重要性を再認識することが出来た」等の意見をいただいた。

研修内容は以下のとおり。

－ 研 修 内 容 －

- ・ 土地改良区の事例発表
（水土里ネット吾平 波江野事務局長）
- ・ 土地改良区運営上の留意点について
（県農地整備課 増田専門員）
- ・ 役員の役割と責任・個人情報の保護について
（九州農政局 中村土地改良指導官）
- ・ 土地改良区の現状・課題・展開方向
（全国水土里ネット 浦山所長）
- ・ 本県土地改良区の現状について
－ 土地改良区運営実態等統計調査より－
（水土里ネット鹿児島 橋野課長）
- ・ 農業基盤整備資金について
（日本政策金融公庫 鈴木課長ほか）
- ・ 質疑応答

多面的機能支払交付金の概要

農業の多面的機能の維持・発揮のための地域活動や営農活動を支援する「日本型直接支払制度」がスタートした。これは、「多面的機能支払」、「中山間地域等直接支払」、「環境保全型農業直接支援」の大きく3つから構成されており、平成26年度は予算措置として実施し、所要の法整備を行った上で、27年度からは法律に基づき実施されることとなっている。このうち、「多面的機能支払交付金（旧農地・水保管理支払交付金の再編）」について、国では483億円（対前年比171%）、県では5億74百万円（対前年比168%）が、26年度予算として計上された。同制度について、県では、現行活動組織に対する速やかな移行促進や、新たな地域に対する新制度の周知、中山間直接支払地区や土地改良区などを中心とした新組織の設立などを推進していきたいとしている。

1. 交付金の構成

多面的機能支払交付金は、農地維持活動を実施するための交付金（農地維持支払交付金）と資源向上活動を実施するための交付金（資源向上支払交付金）の2つで構成されている。

(1) 農地維持支払交付金

- ① 地域資源の基礎的な保全活動
（水路の草刈り・泥上げ、農道の路面維持など）



施設の点検



農地法面の草刈り



水路の泥上げ

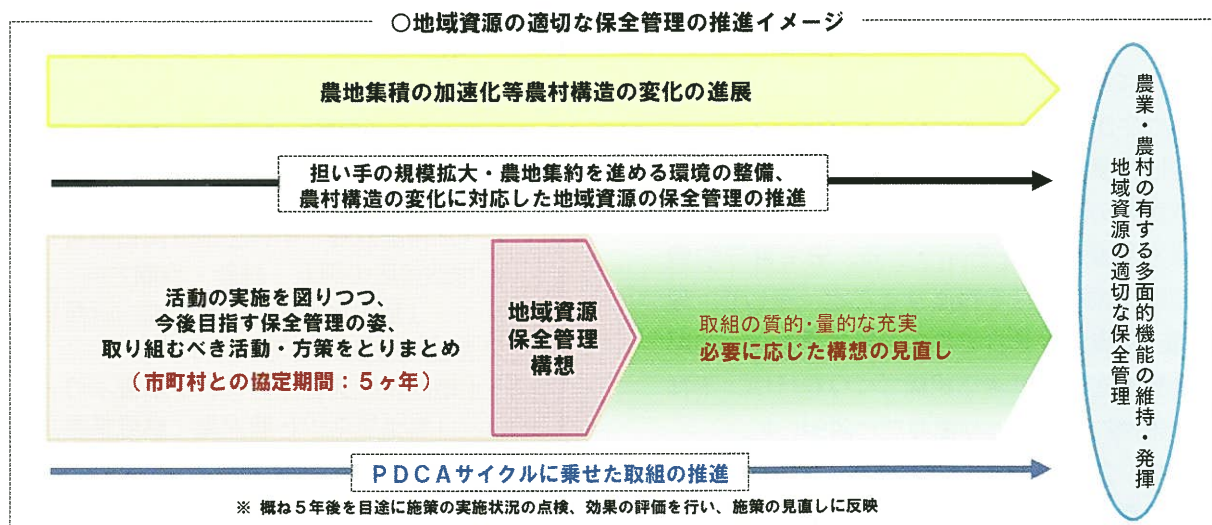


ため池の草刈り



農道の路面維持

- ② 地域資源の適切な保全管理のための推進活動
（体制の拡充・強化、保全管理構想の作成など）



(2)資源向上支払交付金

1) 地域資源の質的向上を図る共同活動

①施設の軽微な補修

(水路、農道、ため池の軽微な補修など)

②農村環境保全活動

(植栽による景観形成、ピオトープづくりなど)



水路のひび割れ補修



農道の窪みの補修



植栽活動



水田魚道の設置

③多面的機能の増進を図る活動

(防災・減災力の強化、遊休農地の有効活用など)

支援対象とする活動	支援対象とする活動の具体的内容	増進に寄与する多面的機能
①遊休農地の有効活用	・地域内外からの営農者の確保、地域住民による活用、企業と連携した特産物の作付等、 遊休農地の有効活用のための活動	国土保全、水源のかん養
②農地周りの共同活動の強化	・鳥獣被害防止のための対策施設の設置や農地周りの藪等の伐採、農地への侵入竹等の防止等、 農地利用や地域環境の改善のための活動	国土保全、水源のかん養
③地域住民による直営施工	・農業者・地域住民が直接参加した施設の補修や環境保全施設の設置、そのための免許取得や技術習得等、 地域住民が参加した直営施工による活動	国土保全、水源のかん養 自然環境の保全、景観形成
④防災・減災力の強化	・水田やため池の雨水貯留機能の活用、危険ため池の管理体制の整備・強化等、 地域が一体となった防災・減災力の強化のための活動	国土保全
⑤農村環境保全活動の幅広い展開	・農地等の環境資源としての役割を活かした、景観の形成、生態系の保全・再生等、 農村環境の良好な保全に向けた幅広い活動及び高度な保全活動 (農村環境保全活動を2テーマ以上選定する活動組織を対象) (現行の向上活動支援交付金の「高度な農地・水の保全活動」への支援を含めて対象)	自然環境の保全、景観形成 保健休養
⑥医療・福祉との連携	・地域の医療・福祉施設等と連携した、高齢者や障害者の農村環境保全活動への参加や農業体験等を通じた交流活動等、 地域と医療・福祉施設等との連携を強化する活動	保健休養
⑦農村文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化	・農村特有の景観や文化を形成してきた伝統的な農業技術、農業に由来する伝統行事の継承等、 文化の伝承を通じた農村コミュニティの強化に資する活動	文化の伝承
⑧都道府県、市町村が特に認める活動	・地域の特性や課題に応じて、農業の多面的機能の増進に寄与する活動として、 特に促進が必要と認める活動 (例：公共用水域の水質保全、希少な野生生物の保護等)	

2) 施設の長寿命化のための活動

(老朽化が進む水路等の補修・更新など)



素掘り水路から
コンクリート水路への更新



老朽化した水路壁の
コーティング

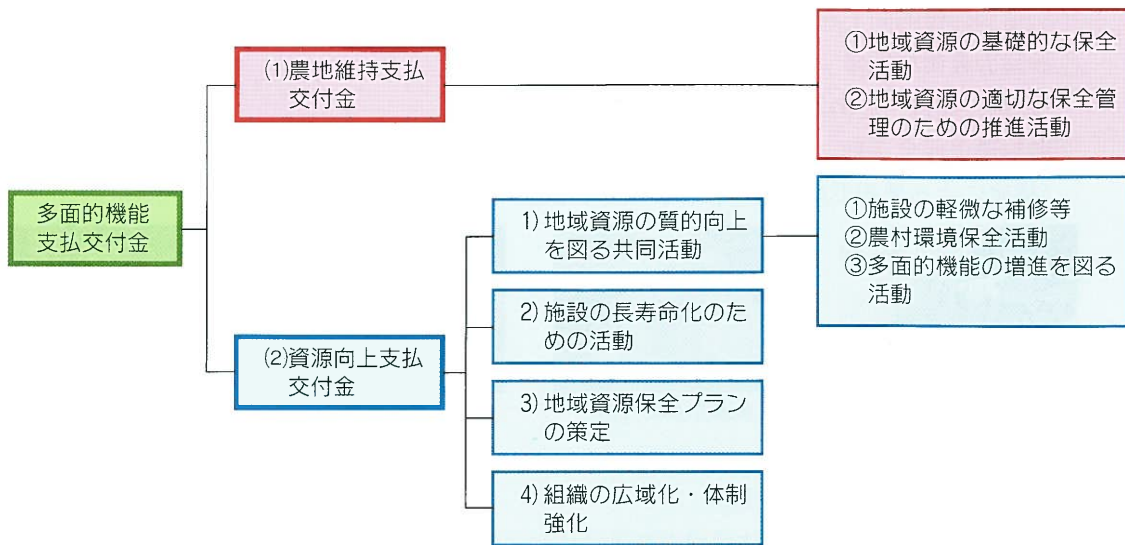


未舗装の農道を
アスファルトで舗装

3) 地域資源保全プランの策定



4) 組織の広域化・体制強化

(3)多面的機能支払交付金の構成



2.組織の設立

多面的機能支払交付金を活用した取り組みを行うためには、以下のような活動組織を設立する必要がある。また、土地改良区の区域を対象とした活動を行う場合、土地改良区そのものは同交付金の活動組織にはなり得ないため、土地改良区の構成員等で、新たに規約を作って活動組織を設立する必要がある。

集落単位	集落営農単位
	
集落ぐるみで保全活動を行う体制	集落営農組織で保全活動を行う体制
水系単位	事業単位
	
ため池や堰などの水系での保全活動を行う体制	ほ場整備事業などの事業実施単位での保全活動を行う体制

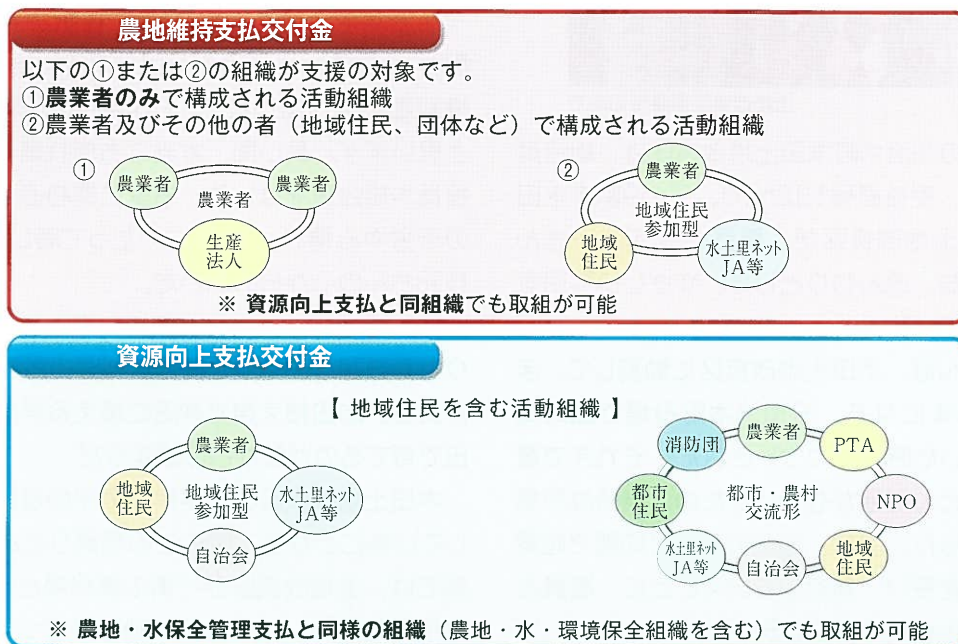
3.活動組織の構成員

(1)構成員

活動組織の構成員は、個人でも団体でも良い。団体の場合は、その団体の中で、活動組織の構成員となることを合意・決定した上で参加する必要がある。

(2)構成員の範囲

農業者は、原則として、対象地域の中で農業を営んでいる者を構成員とする。農業者以外の構成員は、地域の資源を守る共同活動に参加してもらえば、地域の内外は問われない。



4.交付単価

(円/10a)

	田				畑				草地			
	① 農地維持 支払	② 資源向上 支払 (共同活動)	③ 資源向上 支払 (長寿命化)	計	① 農地維持 支払	② 資源向上 支払 (共同活動)	③ 資源向上 支払 (長寿命化)	計	① 農地維持 支払	② 資源向上 支払 (共同活動)	③ 資源向上 支払 (長寿命化)	計
交付単価 A	3,000	2,400	4,400	-	2,000	1,440	2,000	-	250	240	400	-
①のみに取り組む 場合	3,000	-	-	3,000	2,000	-	-	2,000	250	-	-	250
①と②に取り組む 場合	3,000	2,400 (2,000)	-	5,400 (5,000)	2,000	1,440 (1,200)	-	3,440 (3,200)	250	240 (200)	-	490 (450)
5年以上継続 地区の場合	3,000	1,800 (1,500)	-	4,800 (4,500)	2,000	1,080 (900)	-	3,080 (2,900)	250	180 (150)	-	430 (400)
①、②及び③に取り組む 場合	3,000	1,800 (1,500)	4,400	9,200 (8,900)	2,000	1,080 (900)	2,000	5,080 (4,900)	250	180 (150)	400	830 (800)

※：資源向上支払（共同活動）の単価は、
 ア 現行の農地・水保全管理支払の5年以上継続地区又は施設の長寿命化のための対策に取り組む地区では、交付単価Aの75%となる。
 イ 「多面的機能の増進を図る活動」に直ちに取り組めない地区では、通常の単価の5/6となり、()内の単価が適用される。

※多面的機能支払交付金に関するお問い合わせは、水土里ネット鹿児島 事業部
 農村整備課 農村振興係 (TEL:099-223-6135)まで。



きらり★水土里女子

枝元 佳子さん(加治木町木田土地改良区)



土地改良区事務所の前で

始良市の加治木町木田土地改良区は、組合員数738人、受益面積132haで、その9割を水田が占める土地改良区だ。職員の枝元佳子さんは、いつも、ふんわりとした、やさしい雰囲気漂わせている。

枝元さんは、木田土地改良区に勤務して、まもなく14年になる。旧加治木町役場で臨時職員をしていた時にスカウトされた。それまで農業にはほとんど縁がなかったため、当時は戸惑うことだらけ。また、自分の名前と印鑑で起案し、決裁を受け、執行していくことに、職員となった責任を強く感じたそう。

そんな枝元さんにとって、理事の協力は何よりも心強かった。「ここは、理事さんたちの対応が、とても早いんです」と言う。何か問題が起きて、理事たちがさっと対応していくため、自分一人で悩みを抱え込むことがない。現在の理事長を含め、これまで仕えた歴代の理事長たちは、田んぼの行き帰りに、ほぼ毎日事務所に顔を出し、「何も無いね?」と声をかけていくのが習慣だったそう。

また、この地域は市の行政が地域住民と近い。「農林耕地課の皆さんには、いつも助けていただけてきました。ありがたいです」と話す。

土地改良区で働いてきて、最も心に残っているのは、加治木地区のほ場整備事業(県営農村振興総合整備事業)を、立ち上げからずっと目の当たりにしてきたこと。平成16年頃から地元説明会が始まり、理事らが同意徴収に奔走した。この頃、土地改良区事務所には役員が頻繁

に集まり、どうやって地元を説得していくか、繰り返し話し合いが持たれた。悩みや苦労話もたくさん聴いた。しかし、地元の田んぼを良くしたいという熱意が、じりじりと同意を増やし、その結果、少しずつ事業が動いていったのが印象的だったそう。

加治木地区は、平成19年に採択され、換地配分、工事、測量等を経て、平成26年3月に権利者会議が開かれた。「みなさん、感無量だと思います。長い間、本当にお疲れ様でした」。役員や組合員をはじめ、事業に関わる多くの人の苦労や心情を、10年にわたって聴いてきた、枝元さんの心からの想いだ。

木田地域には、大きな伝統行事として、馬踊りと太鼓踊り、そして鹿児島神宮のお田植え祭がある。お田植え祭で神田に植える早苗は、木田で育てるのが昔からの決まりだ。

木田土地改良区の理事は、大字の役員も兼任していることから、特にこの馬踊りとお田植え祭では、土地改良区が行事の事務局として大きな役割を担う。このため、時期が近づくと練習や準備の打合せで、地域の人々が頻繁に出入りし、枝元さんも大忙しになる。

木田土地改良区の自慢を3つ挙げてもらった。理事が元気なこと、地域の団結が強いこと、そして米が特においしいこと、だそう。

忙しい毎日を送る枝元さんだが、そろそろ第二の人生を考える歳になった。最近はお主人と二人で出かけるトレッキングが楽しみのひとつ。「自分たちの時間が増えたら、ちょっと遠出もしたいね」と相談している。



霧島山系の白鳥山山頂にて

水土里ネットの更新情報

(設立・解散、理事長の変更等)

●入会(新設土地改良区)

沖永良部土地改良区

理事長 沖吉 四郎

入会承諾日:平成26年6月9日

●名称変更

変更前:始良町三叉土地改良区

変更後:始良市三叉土地改良区

変更日:平成26年4月19日

●新理事長

鹿屋市南土地改良区 / 持増 重夫

就任日:平成25年12月27日

福山町土地改良区 / 橋口 武儀

就任日:平成26年3月1日

万世土地改良区 / 有馬 満信

就任日:平成26年4月1日

金峰町土地改良区 / 坂口 二郎

就任日:平成26年4月1日

思川土地改良区 / 酒匂 弘和

就任日:平成26年4月1日

長島町山門野土地改良区 / 前畑 詔爾

就任日:平成26年4月1日

末吉町土地改良区 / 濱田 勲

就任日:平成26年4月1日

曾於東部土地改良区 / 本田 修一

就任日:平成26年4月1日

曾於大野原土地改良区 / 山迫 洋一

就任日:平成26年4月1日

長島町川床土地改良区 / 児玉 任光

就任日:平成26年4月3日

喜界土地改良区 / 川島 健勇

就任日:平成26年4月18日

始良市三叉土地改良区 / 新屋敷 幸一

就任日:平成26年4月19日

山下土地改良区 / 柳迫 勝美

就任日:平成26年4月27日

小湊干拓土地改良区 / 遠矢 安則

就任日:平成26年5月13日

●解散

白百合土地改良区

認可日:平成26年3月3日

知名町土地改良区

認可日:平成26年3月3日

「(要約版)賦課徴収と滞納処分」の発行

平成17年11月に発行された「土地改良区が行う滞納処分の手引」に、質疑応答を挿入するなどして、よりわかりやすくした要約版が平成26年6月に発行予定です。

実務に際しては、「土地改良区が行う滞納処分の手引」と併せて活用されることをお勧めします。

購入される場合は、直接、全国水土里ネット事業部にお問い合わせください。

・装幀等: A4版 84頁程度

・頒布価格: 600円(税込・送料別)

・問い合わせ: 全国水土里ネット 事業部

TEL: 03-3234-5592

FAX: 03-3234-5670

E-mail: books@inakajin.or.jp

棚田保全や地域活性化を学ぶ研修会を開催



坂元の棚田を視察

中山間ふるさと・水と土保全推進（棚田）事業の一環として、棚田・棚畑地域で保全活動に取り組む代表者や市町村職員を対象に、人材育成とさらなる活動の充実を目指した研修会が、1月16日～17日に開催され、地域の代表や市町村職員ら13人が、宮崎県日南市と霧島市溝辺町において現地視察と室内研修を行った。

一日目は、宮崎県日南市酒谷地区の坂元の棚田で、地域の概要や活動状況を視察した。

宮崎県日南市にある小松山の南麓に位置する坂元の棚田は、昭和3年から9年に築かれた。標高255～315mの傾斜地に長方形の田んぼが27段あり、その周囲には高さ2m以上の石垣が大小さまざまな自然石や切石で積まれている。同棚田は、棚田百選にも選ばれ、平成18年には全国棚田サミットも開かれた。

この地域でも、農家の高齢化や後継者不足で、棚田を守り続けることが困難になってきており、平成14年度からは棚田オーナー制度を開始した。また、宮崎大学と連携し、棚田での農作業を大学のカリキュラムに組んだり、日南市職員がブログ「たなだ日和」を開設し、四季折々の棚田の風景や活動状況を紹介する等、試行錯誤を重ねながら活動を行っている。

代表の古澤家光さんは、道の駅酒谷の運営にも携わり、棚田米はレストランで提供されるほか、販売もされているそうだ。

翌日は、霧島市溝辺町竹子（たかぜ）地区で、萬田農園・竹子農塾田主の会を運営されている

萬田正治さんを訪ね、その取り組みを伺った。

鹿児島大学で教鞭を執り、副学長まで務めた萬田さんだが、現在は竹子地区に住居を構え、合鴨農法に取り組んでいる。飼育する約500羽の合鴨は、田植え時期には地元の方たちに貸し出しを行う等、合鴨農法の推進に努めている。また、農業生産法人「萬田農園」を立ち上げ、合鴨棚田米や合鴨肉、合鴨卵等の販売も行っている。

さらに、地域農業の活性化と憩いの場を兼ね備えた「竹子の里 きらく館」づくりや、野生動物からの被害を防止する電気柵の電力をまかなう小水力発電施設「左近太郎発電所」づくりなど多くの活動に携わっている。

萬田さんは「農業には二つの側面がある」と話す。「『産業』としての農業と『暮らし』としての農業。棚田・棚畑は、平坦な地域に比べればリスクを伴うもの。だからこそ、棚田を守る展望として、『暮らしの農業』、『生活農業』として、家族経営の小農で存続させることが良いのでは」と話されていた。

休日だけの兼業農家でも、農業体験から始めるのもよい。農業に携わる人たちを少しでも増やすことが急務だろう。参加者たちは、先進的な取り組みを行う地域を目にし、自分たちの地域の棚田・棚畑保全の意義を改めて確認したようだ。



萬田農園で地域活性化についての座学

イオンモール鹿児島で棚田や水土里サークル活動をPR



おいしい島からウーさまも駆けつけた

本会では、「棚田・水土里サークル活動パネル展inイオンモール鹿児島」を3月17日～21日に、鹿児島県と県水土里サークル活動支援協議会、イオンモール鹿児島とともに開催した。

このパネル展は、棚田・棚畑の保全や水土里サークル活動（農地・水保全管理支払交付金）に取り組む地域や活動を紹介し、農業や農村に理解を深めてもらおうと鹿児島県が企画したもの。県とイオン（株）が包括提携協定を結んでいることから、昨年度から同企画展に取り組んでいる。

17日～20日は、棚田の役割や多面的機能、各地で取り組まれている保全活動等の事例を紹介するパネルをはじめ、棚田や棚畑の美しい風景や農作業の様子が写し出された「かごしまフォト農美展」の写真、水土里サークル活動の概要や各地の取り組みを紹介するパネル等を展示した。

最終日の21日には、おいしい島から「ウーさま」が応援に駆けつけ、鹿児島県の棚田や棚畑、水土里サークル活動を紹介するリーフレットや環境教育教材「バイオスフィア」を配布した。また、子どもたちにはウーさまのイラストが描かれた缶バッジや風船をプレゼントし、PRに努めた。

パネル展に立ち寄ってくれた来場者からは「夫が水土里サークル活動に参加しているから、活動のことも水土里ネットのこともよく

知っている」（60代女性）、「棚田での農業体験イベントに興味があるが、いつ頃行われるか知りたい」（40代女性）、「棚田のイベントに参加したことがある。毎回、とても楽しく参加している」（30代女性）、「バイオスフィアはまずは自分が読んで、その後に子どもに読み聞かせたい」（30代女性）、「学校の図書館にバイオスフィアが置いてあるから、読んだことがある」（小学生男児）、「お母さんの買い物の合間にバイオスフィアを読んだら、とてもおもしろかった」（小学生男児）、「ウーさまはとてもかわいかった」（女兒）等の声が寄せられた。

同パネル展にはおよそ900人が訪れ、鹿児島島の農業や農村に興味を持ってもらうきっかけとなったようだ。



棚田や水土里サークル活動のパネルも展示



PRを終えたウーさまは満足して帰島した

県水土里サークル活動支援協議会の幹事会・総会を開催



幹事会で議案を審議する会員ら

●幹事会

5月13日、ウエルビューかごしま（鹿児島市）において、鹿児島県水土里サークル活動支援協議会（会長/宮路高光・日置市長）の幹事会が開催された。

幹事会は、鹿児島県農政部をはじめとする24の団体から組織されており、今回は22団体の出席で開催された。

水土里サークル活動の各活動組織が取り組む、農地・水保管理支払交付金事業は、平成24年度から2期対策が実施されているが、26年度から「農地・水保管理支払交付金」が組み替えられ、新たに「多面的機能支払交付金」が創設された。そのため、新事業の概要説明や支払交付金の特徴、旧事業から新事業への移行手続きなどについて、詳しい説明が行われた。

基礎的な保全活動を支援する農地維持支払は、農業者のみの活動組織でも交付金の対象とするなど、農業者が取り組みやすい制度となっている。今年度は新制度の周知・啓発などの推進活動を展開し、多面的機能支払交付金の取り組み面積の拡大を図る計画である。

このほか、平成25年度の事業実績及び収支決算をはじめ、全3議案が審議され、すべて原案どおり可決承認され、総会へ上程されることとなった。

また、毎年開催されている「水土里サークル活動シンポジウム」について、今年度は多面的

機能支払交付金事業の取り組み拡大に向けた推進大会として、8月28日に、鹿児島市の宝山ホールにおいて開催することが計画されている。

●総会

5月29日、ウエルビューかごしま（鹿児島市）において、平成26年度鹿児島県水土里サークル活動支援協議会総会が開催された。

総会には、水土里サークル活動（農地・水保管理支払交付金）の活動組織を有する市町村や団体等51会員（うち書面議決31）が参加した。

会長あいさつに続いて議事に入り、会長の宮路・日置市長を議長に選任し、平成25年度事業実績及び収支決算など、全3議案が審議され、全て原案どおり承認された。

最後に県農政部の福田博史部長が、「農業農村の維持発展を図るためには、農地・農業用施設を守ることや耕作放棄地を防止することが重要である。高齢化・過疎化の進む農村においては、いろいろな課題もあるが、この基礎的な活動こそが農業生産の増加にも繋がり、今後さらに重要視されると思う。お互いに良い知恵を出し合い、協力しながらこの事業の拡大に取り組みよう」と述べて閉会した。

水土里サークル活動に関するお問い合わせは、県水土里サークル活動支援協議会事務局（TEL099-223-6135）までお寄せください。



挨拶を述べる宮路会長

加治木地区で小学生が生きもの学習会



加治木小学校5年生の皆さん

始良市加治木町のほ場整備地区、県営加治木地区第1換地区の小脇団地には、環境に配慮した施工を取り入れた、90mほどの石積み排水路とビオトープ池がある。同地区内の工事に伴い、もともとこの地域に生息していた準絶滅危惧種のコオイムシをはじめ、地区内の生きもののできる場所を守るために設置されたものだが、加治木小学校（今村伸一校長）では、5年生の児童が毎年このビオトープ池や排水路周辺で生きもの調査と学習会を行っている。

今年は、5月30日に、5年生児童54名と加治木小学校職員、市職員、加治木町木田土地改良区及び本会で、午前中2時間ほどかけて、現地調査と学習会を行った。本会は、ビオトープ池周辺環境の追跡調査も兼ね、調査の指導支援と、学習会での先生役を担当した。

現地で説明の後、児童らは2つの班に分かれて捕獲を開始。排水路に下りた班は、一列に並んで慎重に歩きながら、水に沈めた網の前を足で踏んで生きものを追い込んだり、石の隙間に網を差し込んで生きものを探した。

一方、ビオトープ池に行った班は広く散開し、池の中や周囲の土手に生えた植物の根元などを中心に生きものを探した。

「魚がいた!」、「カニを見つけた!」と、声が上がると、全員があちこちで負けじと水底を探り始め、捕ったものを見せ合ったり、友達と協力して網に追い込んだり、みんな夢中になって生きものを捕獲した。

その後、捕獲した生きものについて学習し

た。児童には、昨年の調査で見つかった生きものリストが配られており、今年もいたもの、いなかったもの、新たに発見したものを記入していった。

本会の担当者が、「ドンコは肉食。メダカと一緒にしておくで一晩で食べてしまう」、「ジャンボタニシは外国から食用として入ってきた。ピンク色の卵を産む」、「コオイムシはオスが卵を背中に背負う姿からついた名前」等の説明すると、児童等は頷いたり歓声を上げたりしながら、熱心に話を聴いていた。

また、ビオトープ池と排水路は隣接しているが、捕獲した生きものの種類が少し異なっている。流水域を好む生きものと、止水域を好む生きものがあり、そのため近くであっても、生息している種に違いが出ることも学んだ。

理科の中川賢治教諭によると、こうした体験は、児童にとって大変貴重だと言う。加治木町は、宅地化が加速的に進んでいる地域でもある。宅地が増えたことで、もともとそこにいた生きものたちは、どうなったのか。これから、どうなっていくのか。生きもの調査は、子どもたちが、そんなことを考えるきっかけになる。また、自分が暮らす地域のことを知り、体験を話せるようになることは、郷土を大切に思う心を育てていく。どちらも、いずれは、自分の未来、地球の未来を考えることに繋がる、大切な学びの場だ。

今年の調査では、準絶滅危惧種のコオイムシ、アカハライモリ、コガタノゲンゴロウをはじめ、多くの生きものを捕獲し観察できた。ビオトープ池が今後もきちんと保全管理され、地域の子どもの成長に役立つことを期待したい。



ビオトープ池で生きものを探索中

平成25年度 土地改良 換地士部会を開催



換地士部会

土地改良換地士の技術力や事務処理能力の向上を図ることを目的に、平成25年度土地改良換地士部会が、2月7日、県土地改良会館で開催され、本会の土地改良換地士等25名が出席した。

会では、土地改良換地士部会内規、第5条（脱退）の見直しで土地改良換地士名簿の実務者を把握するため、改正が提案され、原案どおり承認されたほか、九州各県から提出された換地関係異議紛争処理対策検討会について報告された。

次に、県農地整備課から換地計画書作成業務における留意点と換地計画審査における懸案事項について説明され、県が行う事前審査を受ける前に内部審査を徹底することや、県が定めている換地関係要綱・要領との整合を図り、換地計画書を作成するよう指導を受けた。その後、意見交換会を行った。

換地業務で特に苦労しているのが、土地改良法第5条第7項に関する事項で、「建築物の敷地、墓地、境内敷地内の非農用地を一定の地域内に含めるときは、その土地につき所有権、地上権、永小作権、質権、賃借権、使用貸借による権利又はその他の使用及び収益を目的とする権利を有する者の全員の同意が必要」とあり、書面議決を得るための手続きに相当な時間がかかる。このため権利者会議の成立にも苦慮しており、今後は行政と一体となった対応が必要ではないか等の意見が交わされた。

平成25年度 農地利用 集積推進対策会議を開催



農地利用集積推進対策会議

平成25年度農地利用集積推進対策会議が、2月28日、県土地改良会館で開催された。

同会議は、水土総合強化推進事業で設置することとなっており、ほ場整備等の基盤整備事業が完了した地区において、利用権の設定や面的集積を促進するための指導や啓発活動を行うことを目的に、県、市町村、県農業会議、土地改良区、本会等の職員が委員に選任され、運営を行っている。

同会議には、委員や事業を実施している市町村や土地改良区から13名が出席し、同事業の実施要領について説明したほか、事業推進地区の報告と意見交換を行った。

事業推進地区の報告では、平成24年度から推進地区に選定されているさつま町の中ノ丸地区から、別野農作業受託組合が中心となって、土地利用調整や担い手への集積、農作業受託等に取り組んだ結果、前年度38%だった集積率が62.79%にまで上がったこと、人・農地プランをいち早く活用することで集積が進んでいること等が報告された。

また、平成25年度推進地区の徳之島町の南原地区からは、関係農家を対象にアンケート調査を行った結果、小規模農家には、担い手農家への農作業受委託や利用権設定等の推進活動が必要であり、10年後を見据えた集積計画のために、人・農地プランや農地中間管理機構の活用を積極的に図りたいと報告された。

平成25年度 九州協議会 第2回 換地・確測担当者会議を開催



換地・確測担当者会議

3月19日から20日にかけて、平成25年度九州協議会第2回換地・確測担当者会議を県土地改良会館で開催した。

同会議には、九州各県から換地・確測の担当者33名が出席し、平成26年度の換地及び確定測量の業務計画について審議した後、換地、確定測量と分かれて、各県の問題点について、意見を交わした。

換地関係では、換地積算システムの消費税率改定に伴う積算分類の作業方法や、河川改修により形状が変更された農地の取り扱い、換地処分登記における地上権の処理、新規地区における非農用地の設定、農業委員会等の関係機関との事前協議、未国土調査（字図区域）区域の従前実測を行う地区の取り扱い等、幅広く協議した。九州各県の換地担当者からも、土地改良法5条7項の権利者から書面議決を得るための手続きに相当な時間がかかり、権利者会議の成立に苦慮しているという意見が出された。

確定測量では、公共測量の実施計画や国土地理院への成果提出、成果検定や一定区域の確定等を協議した。

二日目は、水土総合強化推進事業の取り組みにおける現状と課題、換地計画の誤謬訂正について協議した。中でも、一定区域の確定においては、誤謬訂正が出ないよう換地、設計、確測が連携した認識で業務処理をすることが重要だと再確認した。

平成25年度 水土総合強化推進事業 (技術力向上事業)技術実践研修会を開催



技術実践研修会

平成25年度水土総合強化推進事業実施要綱（第6技術力向上事業）に基づいた技術実践研修が1月29日、県土地改良会館で開催された。

この研修は、農業農村整備事業に関する技術力向上を目的としたもので、土地改良区の役職員等を対象に、平成23年度から平成27年度まで実施される。今回は、県内の土地改良区や市町村の職員等44名が出席した。

研修では、九州農政局整備部設計課の床次課長補佐が農業農村整備事業の概要について説明したほか、同審査室の本村技術審査官は、公共工事における品質確保について説明した。また、土地改良技術事務所保全技術課の谷井係長が、農業水利施設の保守管理と補修について、同課の中村係長が、農業水利施設の機能保全について説明した。

なお、この研修会のカリキュラムで業務の参考にしたい科目等がありましたら、資料提供が可能です。本会の出先事務所・支部に気軽にお問い合わせください。

霧島市学童クラブ防災勉強会を開催



防災勉強会の様子

本会の水土里情報センターでは、3月26日、27日の2日間、霧島市溝辺営農研修センターと白蓮保育園において、溝辺学童クラブと白蓮学童クラブの児童約35名を対象に、霧島市学童クラブ防災勉強会を開催した。

これは、震災対策農業水利施設整備事業ため池ハザードマップ（浸水想定区域図）作成の一環として、小学校低学年の児童を対象に防災知識を楽しく学んでもらおうと実施したもの。

1日目の勉強会では、児童が4グループに分かれて大きな図面を囲み、DIG（※1）を用いた図面作成と「火山」、「大雨」、「地震」などの自然災害や「ため池」について勉強を行った。

DIGを用いた図面作成では、自然災害について写真やイラストで勉強しながら、地図に自分の家や友達の家、災害時に役立つ場所などを探してシールを貼り、通学路やよく通る道などに着色をする作業を行った。

災害をイメージしながら作業をしてもらうことで、「自分の身は自分で守る」というメッセージを伝えることを目指した。

子どもたちは、自分たちが住んでいる地域の地図を見ながら真剣に作業をしていた。担当職員の「自然災害ってなんだろう？」という質問には、「大雨!」、「台風!」、「地震!」などと積極的に手を挙げて答え、スクリーンに映し出される写真等を見ながら、熱心に説明を聞いていた。



相談しながら、道路、通学路、良く通る道を着色していく



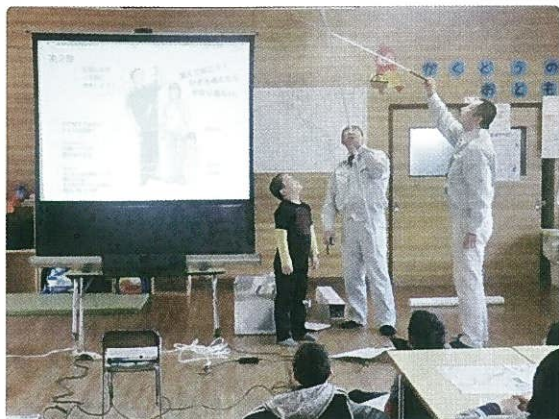
家、危険箇所、災害時に役立つ場所にシールを貼る

2日目は、前日の復習として、ため池の役割や、避難訓練の合い言葉「お・か・し・も」（※2）の確認をした。



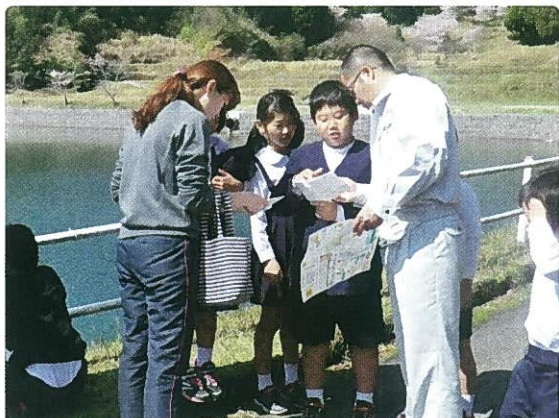
ハザードマップを見る児童

また、ハザードマップを子どもたちに配付し「ハザードマップの読み方」や「ため池が決壊したら」の勉強も行った。



ハザードマップ読み方の説明

その後は、子どもたちと一緒にため池を見に行き、実際にまち歩きを通じて児童にため池や地震や大雨時に危険な場所などを“知ってもらう”ことを行った。



ため池について現地の説明

再び、会場に戻ってからは、「防災ノート」を配り、児童に「大雨・台風の時に気をつけること」や「災害の時に守ること」、「家や外で地震にあったら気をつけること」などの「防災クイズ」にチャレンジしてもらった。

みんなで答え合わせを行い、防災・減災について楽しく学んでもらう機会となった。

勉強会に参加した子どもたちからは、「家の人に話をしたい」、「勉強したことを活かしたい」などの感想があり、本当に大災害が起きたらどうしたらよいのかを考える時に、この勉強会の経験が大きく生きてくるものと思われる。



防災ノートの問題を解く児童

DIGを用いたワークショップ（勉強会）に参加することで、地域住民は災害を知る、まちを知る、人を知ることができるようになる。また、マップ作成の過程を共有することにより、地元住民の防災に対する意識の向上が図られ、今後、地域住民自らが地域での防災を考えるきっかけづくりになることも期待できる。

この防災勉強会の様子は、初日に地元の南九州ケーブルテレビネットが取材にきており、当日のニュースで紹介された。



南九州ケーブルテレビネットで紹介された

本会では、ため池ハザードマップ作成の支援を行い、今後の地域の防災・減災に貢献していきたいと考えている。

- ※1. D:Disaster（災害）、I:Imagination（想像力）、G:Game（ゲーム）の略
- ※2. 避難時の標語、お:押さない、か:駆けない、し:喋らない、も:戻らないの略

第15回ため池のある風景写真コンテスト 本県の写真愛好家が最高賞を受賞

ため池の存在と大切さについて知ってもらおうと、全国ため池等整備事業推進協議会が主催している「第15回ため池のある風景写真コンテスト」の審査会が3月7日に開かれた。

全国の写真愛好家235名から562点の応募が寄せられ、審査員の英伸三氏(写真家)が入賞4点、特別賞32点を選定した。

本県からは、霧島市の山田宏作さん(55)が指宿市の新永吉の棚田で撮影した「田ならし」が最高賞である優秀賞に選ばれた。また、志布志市の峯崎善通さん(72)が宮崎県小林市で撮影した「池干し中」は、特別賞に選ばれた。

英審査員は、「薩摩半島一帯の田畑を潤す池田湖と、その向こうに薩摩半島を象徴する開間岳を背景に、基盤整備がまだされていない非常に変化の富んだ棚田で田ならしが始まっている。まさに春の農作業の風景をしっかり捉えた非常にダイナミックな農村風景で、旅心がそそられ、春の息吹が充ち満ちている。伝わってくるものが豊富にある作品」と、講評した。

写真の愛好歴40年の山田さんは、「受賞の知らせに驚きました。目に映るものすべてが被写体です。今後も農村風景を丁寧に写していきたいです」と、喜びを話してくれた。



山田 宏作「田ならし」池田湖(指宿市)

「疏水のある風景」写真コンテスト2013 本県から2名が入選

疏水を含む農業水利施設の役割や多面的機能について、広く知ってもらおうと、全国水士里ネットと疏水ネットワークが平成18年から開催している「疏水のある風景」写真コンテスト2013の審査会が、2月25日、審査委員長の織作峰子氏(写真家)ほか2名で開かれ、入賞5点、入選15点を選定された。

全国の写真愛好家93名から疏水をテーマに、農村の景観や施設とともに生きる人々、暮らし等の170点の作品が応募され、本県からは、鹿児島市の梶原昭二さん(80)の「白と黒と緑」と、志布志市の峯崎善通さん(72)の「斎田の田植え」が入選した。

審査員からは「疏水と共に暮らす人々のドラマが見える作品が多い。今後も疏水を守り伝えていくことを願っている」と総評された。



梶原 昭二「白と黒と緑」スプリンクラー(霧島市)



峯崎 善通「斎田の田植え」神宮斎田疏水(霧島市)

水土里ネット鹿児島 パンフレットを作成

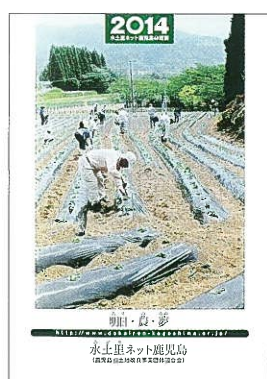
この度、本会の概要や業務活動を紹介する、平成26年度版のパンフレット2種類を作成しました。

これらのパンフレットには、本会が会員や地域を対象に行う独自の支援事業をはじめ、各地で活用が広がっている水土里情報システムの活用事例や再生可能エネルギーの導入促進支援、平成26年度から、「多面的機能支払交付金制度」へと再編された水土里サークル活動等についても紹介しています。

また、会員地域の声に応えるさまざまな支援活動や事業等についても掲載しております。

会員の皆様には、最寄りの事務所または支部を通じてお配りしますので、ぜひご覧ください。

なお、このパンフレットに関する問い合わせは、水土里ネット鹿児島の各部または、各事務所、支部までお寄せください。



(写真左)2014水土里ネット鹿児島
概要パンフレット「明日・農・夢」



(写真右)「私たちに おまかせください」
水土里ネット鹿児島業務推進
プロジェクト2014

新規採用職員5名が入会

本年4月から、下記の5名が新たに本会職員となりました。一日も早く、会員の皆様方のお役に立てるよう、今は、それぞれの配属部署で上司の指導を受けながら、一生懸命仕事を覚える努力をしています。



織田 翔平
事業部 農村整備課
農村計画係



上門 裕一
事業部 農村整備課
農村整備係



神之田 拓也
事業部 換地課
換地1係



角 啓史
事業部 換地課
換地2係



馬場 敦久
徳之島支部 換地1係

引き続き、皆様方のご指導とご支援をよろしくお願いいたします。



各管内だより

鹿児島事務所

フォアスシステム導入の紹介

鹿児島市郡山岳町の谷地区は、昭和62年に水田基盤整備を行ってから、約30年が経過し、暗渠排水施設の機能低下に伴う、慢性的な排水不良水田での営農に悩まされている。特に稲刈作業においては、作業前に一定期間の水切りを行っても、コンバイン等の機械搬入を行うことができないほどの状態で、バインダーを併用しながら、場所によっては人力による手刈りを行っているが、高齢者にとっては、わずかな面積でも相当な重労働となっており、稲刈りをあきらめたり、耕作自体を断念するケースも生じている。

このような状況をなんとか解消しようと、地下水水位制御システムであるフォアスシステム(FOEAS:地下水水位制御システム)を導入した水田が谷地区にあるので、紹介したい。

フォアスを導入した水田は、約7aと約15aの2筆で、平成24年に対策を行った。フォアスの導入前は、前述したとおり、慢性的な排水不良により、田んぼに足を踏み入れると、膝までどっぷり浸かって作業を行っていた水田が、導入後は、稲刈り時に、コンバインによる作業が快適に行えるようになった。また、水管理においても、大きな省力化が図られた。

取入口から取水した用水は、フォアスシステムの特徴である水田長辺方向に埋設したパイプ(ポリエチレン製有孔管)と短辺方向に張り巡らせた補助孔(弾丸暗渠)を通じて水田に供給される。排水路側に設けた水位制御器の水位設定により、田面から+20cm ~ -30cmの範囲で設定できるようになり、これまでのように、取水口と排水口を制御する田面での水管理を行う必要がなくなった。

これに加えて、従来は、水田に水を取り入れる際に欠かせない作業として、水田の外周部を鍬を使って人力で溝切りを行い、田面へ給水を行っていたが、導入後は、地下からパイプを介

して給水されることで、溝切りの重労働もなくなった。

このように、フォアスを導入した水田では、農作業の省力化、効率化が実現された。現在のところ、フォアスを導入したのは、この2筆のみであり、個人投資による整備となっているが、今後は、事業導入による大規模な整備を目指したいとの意向もある。

本会としても、地域の声に耳を傾け、地域農業が存続し、発展するための支援を継続して行っていきたいと感じている。



間もなく田植えを迎える水田

右ほ場：フォアス施工により水はけがよい
(耕耘2回-1月、4月初旬)
左ほ場：フォアス未施工で水はけがよくない
(耕耘1回-4月下旬)

徳之島支部

畑かんセミナーを伊仙町で開催



畑かんセミナー

本会では、奄美地域で実施されている大規模畑地かんがい事業を円滑に推進するため、畑地かんがい対策と土地改良区の基盤強化に一体的に取り組むことが重要であると、平成11年度に奄美地域「畑地かんがい・土地改良区」対策センターを設置した。大島事務所が中心となり、徳之島支部、沖永良部支部とともに、国、県、市町村、土地改良区と連携を図りながら、畑地かんがい・土地改良区の実施、管理体制の整備強化をはじめ、研修、技術支援等を行っている。

1月20日、平成25年度奄美地域「畑地かんがい・土地改良区」基盤強化対策セミナーが伊仙町ほーらい館で開催され、奄美群島内の市町村や土地改良区、水管理組合、九州農政局徳之島用水農業水利事業所、大島支庁農村整備課、徳之島事務所農村整備課、本会等62名が参加した。

開会の挨拶では、大久保明・伊仙町長が、奄美群島復帰60周年と徳之島の世界遺産登録に向けた動向、徳之島ダム completion 通水に備えた支援等について述べた。

続いて、山田安則・大島事務所長が、同セミナーの概要を説明。さらに、本会の西野一秀専務理事が情勢報告について、徳之島用水農業水利事業所調査設計課の後藤光喜課長が徳之島の

国営事業について、県徳之島事務所農村整備課の山下義美計画係長が徳之島の事業概要について、それぞれ講演を行った。

その後、徳之島用土地改良区の大川正仁事務局長をはじめ、木之香水管理組合の谷村清次・前組合長、徳之島事務所農業普及課の鍋田康之技術主幹、喜界町産業振興課の栄常光課長が、畑かんの推進や利用の現状等について事例を発表し、各土地改良区からは現状が報告された。

畑地かんがい事業の導入によって、農作物の収量が増えたことや農作業の省力化が図られたこと等、島の農業が大きく変化したことが紹介された。しかし、近年は畑かん施設の老朽化が進み、スプリンクラーや給水柱の故障が相次ぎ、維持管理費が高んでいること、昨年の大干ばつの際には水利用のルールを守らない組合員がいたため、送水できない事態が発生したこと等、土地改良区が抱える課題も報告され、参加者は熱心に耳を傾けていた。

徳之島ダムは、平成26年2月から湛水試験が始まっており、27年度からは、順次通水試験も開始される予定である。今後、農作業の省力化や農業経営の多角化、天候に左右されない計画的な水利用の実現等による農業振興に大きな期待が寄せられている。

同セミナーでは、畑かん営農を確立するため、農家と土地改良区、行政が一体となって管理体制を構築していくことの重要性が再確認され、東郷清次・徳之島事務所農村整備課長の挨拶をもって閉会した。



情勢を報告する西野専務理事

第37回全国土地改良大会（山梨大会）の開催について

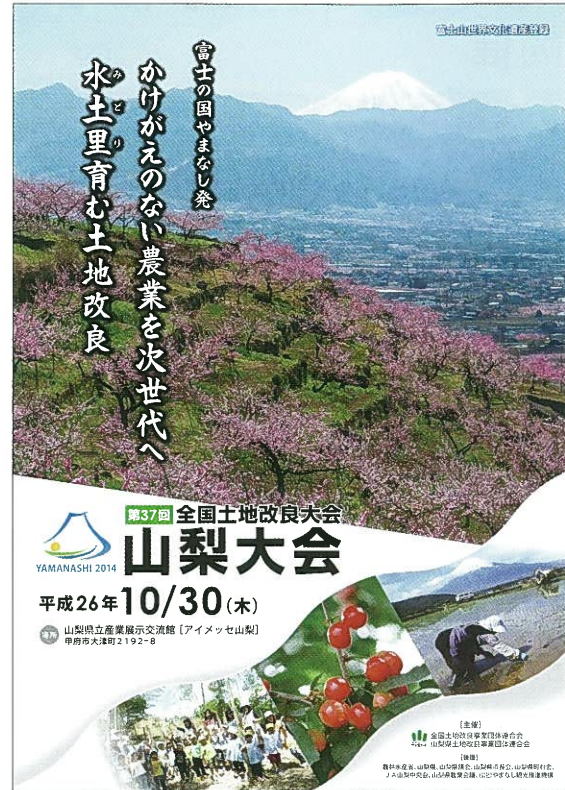
第37回全国土地改良大会が、10月30日（木）より山梨県で開催されます。大会概要は、以下のとおりです。

詳細につきましては、本会の各事務所・支部を通じてご案内します。

○開催趣旨

本大会は、農業農村整備に携わる全国の関係者が一堂に会し、「農業農村の重要性」とそれを支える「農業農村整備事業の役割」を広く国民にアピールし、国の礎である農業・農村をさらに発展させるとともに、広く次世代に引き継いでいくことを目的としています。

併せて、「果樹王国やまなし」の農産物や「世界文化遺産富士山」をはじめとした多くの観光資源など山梨の魅力をPRするため開催いたします。



○大会テーマ：富士の国やまなし発

「かけがえのない農業を次世代へ みどり 水土里育む土地改良」

○開催日：平成26年10月30日(木)～11月1日(土)

大会式典 10月30日 13:00～16:00

交歓会 10月30日 17:30～

事業視察 10月31日～11月1日（全5コース：日帰り2コース、1泊2日3コース）

○開催場所：山梨県立産業展示交流館（アイメッセ山梨）

○主催：全国土地改良事業団体連合会、山梨県土地改良事業団体連合会

○後援：農林水産省、山梨県、山梨県議会、山梨県市長会、山梨県町村会

JA山梨中央会、山梨県農業会議、(公社)やまなし観光推進機構

○参加者：全国の農業農村整備事業関係者

○参加人数：3,000名程度

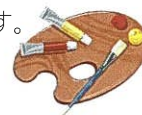
お問い合わせは、水土里ネット鹿児島 総務部 総務課 総務企画係(TEL:099-223-6111)まで



「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2014 作品募集

水土里ネット鹿児島では、ふるさとのすばらしさを発見し、水と土への関心を高めてもらうとともに、入賞・入選作品を展示することで、多くの人々に農業や農村の魅力をアピールすることを目的に、全国水土里ネットと共催で、「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2014を下記の要領で開催します。

地域の児童の皆さんへ、ぜひ応募についてご案内ください。



○テーマ：「新発見！ぼくのわたしのふるさと」

田んぼや棚田、畑、ため池、農業用水路などの風景や大切な水路を守っている人たち、農業に関する古くから伝わる祭りや風習、郷土料理、田んぼの生きもの、農家の生活、さまざまな農作業風景など、自由に描いて下さい。

（応募のきまり）

○応募資格：小学生以下

○サイズ：四つ切り画用紙サイズ(38cm×54cm)以上、最大90cm×190cm。厚さ3cm以内。

○作品の画材は、自由です。

○応募作品は未発表のものに限ります。

○応募作品には、応募用紙に、必要事項を記入し、1点ずつ作品の裏、右下スミに、はがれないように貼り付けて下さい。共同作品の場合には、代表者名、全員の名前も明記し、応募用紙の近くに貼り付けて下さい。

○グループで応募される場合には、題材の選択に作者ひとりひとりの発見や感動が表現されるよう、題材や構図の統一はなるべく避け、各自が自由に選択するように心がけて下さい。

○応募用紙は、案内チラシ、ホームページ「新・田舎人フォーラム」よりダウンロード

(<http://www.inakajin.or.jp/>)（6月中旬以降掲載予定）をご利用下さい。

○応募方法：水土里ネット鹿児島または子ども絵画展事務局へ郵送

○応募〆切：平成26年9月5日(金)

○賞：入賞20点、入選約100点（予定）ほか。

入賞者及び入選者には記念品。応募者全員には参加賞。

○発表：10月中旬に本人または代表者にお知らせ。ホームページでも発表。

○授賞式：平成26年11月29日(土) 日展会館（東京都台東区上野）

入賞者を親子各1名、授賞式に招待。

○作品展示：平成26年11月～平成27年3月

東京都内ギャラリー、その他商業施設展示スペース

○主催：全国水土里ネット、都道府県水土里ネット

○お問い合わせ：水土里ネット鹿児島 総務部 管理課 会員支援係(TEL:099-223-6116)まで



「第23回かごしまフォト農美展」作品募集

水土里ネット鹿児島と鹿児島県農業農村整備情報センターでは、鹿児島県内の魅力ある農業と農村をテーマに、「第23回かごしまフォト農美展」の作品を募集します。

1. 区 分：自由部門、課題部門「農の美」
2. 応募規程：所定の様式に必要事項を記入し、作品の裏面に貼り付けること
 - ①単写真：モノクロ・カラーともに四つ切り以上半切まで
 - ②組写真：1点につき4枚以内。レイアウトやサイズ、モノクロ・カラーは自由。
市販のスチロール紙(L版の半分=約56cm×81cm)に貼る。
 - ③応募点数：自由部門、課題部門ともに一人10点以内
 - ④出品料：無料
3. 受 付：事務局へ郵送または持参にて受付
 - ①地方受付：平成26年8月25日(月)～29日(金)土改連各事務所・支部
 - ②中央受付：平成26年9月 6日(土)～7日(日)土改連本部1階ロビー
 - ③郵 送：平成26年9月8日(月)必着
4. 審査会：平成26年9月18日(木)予定
5. 展覧会：平成27年1月6日(火)～12日(月)
鹿児島市立美術館 一般展示室
6. 表彰式：平成27年1月10日(土)(予定)



皆さまのご応募をお待ちしております。

お問い合わせは、鹿児島県農業農村整備情報センターまで

水土里ネット鹿児島 総務部 管理課内 (TEL:099-223-6195)

土地改良区複式簿記研修会の開催について

全国水土里ネットの主催で、小水力発電を実施または今後実施を検討している鹿児島県内の水土里ネット(土地改良区)の職員を中心に、複式簿記の研修会が開催されます。

対象となる水土里ネットの皆様には、プログラムの詳細が決まり次第、ご案内します。

1. 開催日：平成26年10月28日(火)～29日(水)
2. 開催場所：かごしま県民交流センター 大研修室1(東棟3階)
3. 対 象：小水力発電を実施または実施を検討している土地改良区の職員
4. 主 催：全国水土里ネット
5. 協 力：水土里ネット鹿児島

お問い合わせは、水土里ネット鹿児島 総務部 管理課 会員支援係 (TEL:099-223-6116)まで

会議・研修会情報

主として会員を対象とする会議・研修会等の平成26年6月1日現在の予定です。
変更になる可能性もありますので、詳細は事前に担当課までお問い合わせください。

開催月日(予定)	名称	対象	場所(予定)	問い合わせ先
7月1日	農業農村整備第1回県内研修会 (農村振興技術連盟・事業連盟共催)	県、市町村、土改連、 県建設業協会、測量業協会	鹿児島市 (ジェイドガーデンパレス)	土地改良研究所
7月9日	棚田保全協議会かごしま 理事会・総会	役員、協議会会員	鹿児島市 (土改連本部)	事業部 農村整備課
7月10日	土地改良施設維持管理適正化事業説明会	市町村、土地改良区	鹿児島市 (土改連本部)	事業部 農村整備課
7月17日～18日	土地改良団体職員研修会	市町村、土地改良区、土改連	東京都	総務部 総務課
7月22日	水土里ネット鹿児島 第1回理事会	役員等	鹿児島市 (土改連本部)	総務部 総務課
7月下旬、9月、10月	小水力等発電導入技術力向上中央研修会 地方研修指導者育成研修	県、土改連	東京都	土地改良研究所
7月～3月 適時実施	小水力等発電導入技術力向上地方研修 専門技術者派遣	協議会の 構成員である土地改良区	各会員市町村	土地改良研究所
8月(調整中)	農業集落排水事業全国協議会総会・ 研修会	市町村、土改連	東京都	事業部 農村整備課
8月上旬	九州ブロック換地事務新規担当者研修会	県、市町村、土地改良区、 土改連	宮崎県	事業部 換地課
8月28日	水土里サークル活動 推進大会	水土里サークル活動組織、 県、市町村、土地改良区等	鹿児島市	事業部 農村整備課
9月9日	中山間ふるさと・水 リーダー研修会	ふるさと水と土指導員 市町村、土地改良区	鹿児島市 (土改連本部)	事業部 農村整備課
9月下旬	標準積算システム運用説明会	市町村、土地改良区	鹿児島市 (土改連本部)	総務部 管理課
10月14日～15日	九州農地海岸保全協会総会	県、市町村、土改連	大分県別府市	事業部 農村整備課
10月23日～24日	第20回全国棚田(千枚田)サミット	ふるさと水と土指導員 市町村、土地改良区	山形県山市	事業部 農村整備課
10月28日～29日	土地改良区複式簿記研修会	土地改良区	鹿児島市	総務部 管理課
10月30日	第37回全国土地改良大会(山梨大会)	県、市町村、土地改良区、 土改連	山梨県	総務部 総務課
10月下旬	農業農村整備第2回県内研修会 (農村振興技術連盟、事業連盟)	県、市町村、土改連、 県建設業協会、測量業協会	鹿児島市(県歴史資料セ ンター黎明館)	土地改良研究所

編集後記

▼水土里ネットまつもとが21創造運動大賞を受賞されました。地域や各団体と連携しながら、幅広い活動を展開されています。改めてお祝い申し上げます。▼日本型直接支払制度が、平成27年度から法律に基づき実施されることとなりました。今号では、このなかのひとつ、多面的機能支払について詳しくご紹介しています。本会では本年度からスタートした農地中間管理事業も含めて、市町村・土地改良区会員の皆さまが、これらの事業に積極的に取り組めるよう支援していくこととしております。制度の活用に関するお問い合わせなどお気軽にご相談ください。▼小学生の生きもの調査や災害学習会について掲載しました。準備が大変な面もありますが、子ども達の笑顔や一生懸命な姿は、私たちにとっても大きな励みです。こうした活動も、本会の大切な役割の一つだと考えて対応しています。▼4月から新規採用職員5名が加わりました。今年度は職員108名体制で事業活動に取り組んで参ります。引き続きよろしくお願いたします。(I)



水土里ネット鹿児島

鹿児島県土地改良事業団体連合会
〒892-8543 鹿児島市名山町10-22
TEL.099-223-6111(代) FAX.099-223-6130